

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520174

研究課題名（和文） 彦根藩井伊家の蔵書目録に関する基礎的研究

研究課題名（英文） The study of library catalogue, The Iis, Hikone cka.

研究代表者

臆吹 覚（IBUKI SATORU）

福井大学・留学生センター・准教授

研究者番号：70362035

研究成果の概要（和文）：

江戸中期から明治中期までの期間に於ける井伊家の 24 点の蔵書目録を調査した結果、彦根城内の文庫には寛政 6 年（1794）には 210 点、嘉永年間には 495 点、明治中期には 144 点が所蔵されていた。江戸藩邸には、江戸後期には 362 点、安政 5 年以降には 569 点、明治初期には 3,151 点の蔵書があった。また、その蔵書の内容は茶道、音楽、国文学、兵書などが中心であるが、唐本や法帖、蘭書なども所蔵されていた。本研究により井伊家には蔵書家の一面があったことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

I investigated the library catalogs of The Iis, Hikone cl. it was written in the 18th and 19th centuries. The library of Hikone Castle, There were 210 books in 1794, there were 495 books in Kaei year, there were 144 books in the early Meiji. The villa in the Edo, there were 362 books in the late Edo period, there were 569 books in 1858, there were 3,151 books in the early Meiji. The library had been holding around the tea ceremony, music, Japanese literature. And, books and made in China, calligraphy, and books of Europe was also in the collection.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：書誌学・蔵書目録・近世・大名・井伊

1. 研究開始当初の背景

井伊家史料は昭和 50 年代に入って本格的な学術調査がなされ、その調査報告書も公開され、その研究環境は整いつつあった。そうした中で、報告者は『彦根藩弘道館書籍目録』（ゆまに書房、平成 17）を刊行し、彦根藩藩校の蔵書目録について研究を進めていた。そして、今回、その研究を一步進めて、井伊家

全体の蔵書目録の調査・研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究では、彦根藩主井伊家の蔵書目録に関する基礎的な調査・研究を通して、井伊家の教養的基盤を研究する。井伊家は、政治史的にも文化史的にも日本近世を代表する大名であり、その意味に於いて、本研究は近世

大名の教養的基盤に関する基礎的研究である。

3. 研究の方法

(1)「彦根藩調査報告書」などを手掛かりに彦根城博物館・国立公文書館・滋賀県内の図書館などを調査し、井伊家の蔵書目録を可能な限り蒐集した。

(2)蒐集した蔵書目録を分析し、彦根城内の目録か、江戸藩邸の目録かの区別を行なった。

(3)蔵書目録に記載されていた書名について、個々にそのジャンル・作者・成立年などを調査し、目録ごとの内容を精査した。

(4)蔵書目録を彦根と江戸に分けて、その上で成立年代順に並べ直し、井伊家の蔵書がどのように形成されたかを解明した。

4. 研究成果

(1)本研究では 24 点の蔵書目録を調査・研究した。これら 24 点の目録は、彦根城内の文庫の蔵書目録 3 点、江戸藩邸内の文庫の蔵書目録 6 点、上記 2 種いずれか判断できない蔵書目録 15 点の 3 種類に分類することができる。以下、上記 3 種に属する蔵書目録の書誌の要項を記す。

①彦根城内の文庫の蔵書目録

1)「彦根書物帳」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10858。調番 7319。1 冊。93 丁。半丁 4 行。縦 29.4 cm、横 20.9 cm。印記は「井伊家／蔵書」。

2)「彦根物置書物類留」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(5) 102 頁。No.1257・1258。調番 Y-49-1.2。2 冊。第 1 冊 9 丁、第 2 冊 12 丁、計 21 丁。半丁 18 行。縦 12.5 cm、横 33.5 cm。印記なし。

3)「書籍目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10875。調番 40825。1 綴。15 丁。半丁 9 行。青色罫線紙。縦 23.0 cm、横 16.0 cm。印記「井伊家／蔵書」。

②江戸藩邸内の文庫の蔵書目録

1)「江戸書物帳控」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 168 頁。No.8218。調番 7309。1 冊。53 丁。半丁 5 行。縦 25.2 cm、横 17.3 cm。印記「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

2)「江戸蔵書目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(5) 99 頁。No.1220。調番 Y2-2。5 冊。半丁 16 行。縦 12.5 cm、横 34.3 cm。印記「井伊家／蔵書」。

3)「書籍目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10859～10868。調番 7311～7318。本目録はその第 2 冊から第 5 冊並びに第 9 冊から第 13 ノ下冊までの計 10 冊が現存する。この目録が全 13 冊と仮定した場合、少なくともその第 1 冊、第 6 冊、第 7 冊、第 8 冊の計 4 冊が欠けていることになる。もちろん、第 14 冊以降の存在も否定できない。成立時期は明治時代初期と推定される。以下、各冊の概要を記す。

3-1)「書籍目録(二)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10859。調番 7311。1 冊。39 丁。半丁 5 行。縦 24.4 cm、横 17.5 cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「弍」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

3-2)「書籍目録(三)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10860。調番 7312。1 冊。35 丁。半丁 5 行。縦 24.2 cm、横 17.3 cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「三」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

3-3)「書籍目録(四)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10861。調番 7313。1 冊。38 丁。半丁 5 行。縦 24.4 cm、横 17.2 cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「四」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

3-4)「書籍目録(五)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10862。調番 7315。1 冊。20 丁。半丁 6 行。縦 24.3 cm、横 17.2 cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「五佛哥」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

3-5)「書籍目録(九)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10863。調番 6354。1 冊。32 丁。半丁 6 行。縦 28.6 cm、横 20.8 cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「九」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第 2 丁表)。

3-6)「書籍目録(十)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10864。調番 7316。1冊。22丁。半丁6行。縦28.2cm、横20.5cm。表紙中央部に「御書籍目録」、同右肩部に「十」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第2丁表)。

3-7)「書籍目録(十一)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10865。調番 6355。1冊。36丁。半丁6行。縦27.5cm、横20.1cm。表紙中央部に「御書籍目録」、その右肩部に「十一」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第2丁表)。

3-8)「書籍目録(十二)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10866。調番 7317。1冊。43丁(以下、欠損か)。半丁7行。縦30.0cm、横21.2cm。表紙中央部に「御書籍目録」、その右肩部に「十二」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第2丁表)。

3-9)「書籍目録(十三ノ上)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10867。調番 7317。1冊。47丁。半丁8行。縦30.0cm、横21.2cm。表紙中央部に「御書籍目録」、その右肩部に「十三ノ上」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第1丁表)。

3-10)「書籍目録(十三ノ下)」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10868。調番 7318。1冊。10丁。半丁8行内外。縦27.8cm、横19.9cm。表紙中央部に「御書籍目録」、その右肩部に「十三ノ下」と墨書されている。印記は「井伊家／蔵書」(第2丁表)。

4)「蔵書目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(5) 101頁。No.1253。調番 Y45。1綴。縦12.5cm、横34.0cm。4丁。半丁16行内外。

5)「御帳ニ無之御書物目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10880。調番 7310。1冊。37丁。半丁6行。縦24.5cm、横17.2cm。印記は「井伊家／蔵書」(第2丁表)。

6)「書籍目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10876。調番 6418。1冊。26丁。半丁6行。縦24.4cm、横17.3cm。印記は「井伊家／蔵書」(第1丁表)。

③上記2種の何れか判断できない蔵書目録

1)「書籍目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316頁。No.10869。調番 7314。1冊。48丁。半丁9行(罫線紙)。縦24.5cm、横17.1cm。印記は「井伊家／蔵書」(第1丁表)

2)「御書物目録」

本目録の包み紙の中央部に「御書物目録」と大書され、その右肩部に「未ノ八月調之為見合 御手元方下候」とある。ここにいう「未」は江戸末期の安政6年(1847)、弘化4年(1859)のいずれかと考えられる。本目録は1)「詩文章之御本目録」、2)「御床裏御書物記録」、3)「連歌俳諧御書等目録」、4)「仏書目録」、5)「名所絵等目録」、6)「詩文章等目録」、7)「御書物之類目録」の計7冊から成る。7冊すべてに印記はない。この7冊は全てほぼ同じ寸法の横帳であり、ひとまとまりの史料と考えられる。本目録に掲載された書名は後述する通り、江戸藩邸の蔵書目録の記事と一致するものが多く、また、目録の見出しとして立てられている分類項目も江戸藩邸の蔵書目録と共通するものがある。しかし、その一方で第6冊「詩文章等目録」第3丁表に「此廿帳ハ前年江戸方廻り候書物斗也」との記載がある。ゆえに本稿では本目録が彦根で作成されたものか、江戸藩邸で作成されたものか判断し兼ねる。以下、各冊の簡略な書誌を記す。

2-1)「詩文章之御本目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10882。調番 7289-1。1綴。4丁。半丁16行。縦12.2cm、横32.8cm。

2-2)「御床裏御書物記録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10883。7289-2。1綴。6丁。半丁14行。縦12.7cm、横34.0cm。目録下部に虫損があり、文字が判読できない箇所がある。

2-3)「連歌俳諧御書等目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10884。7289-3。1綴。10丁。半丁14行。縦12.0cm、横34.1cm。目録下部に虫損があり、文字が判読できない箇所がある。

2-4)「仏書目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317頁。No.10882。7289-4。1綴。2丁。半丁16行。縦12.1cm、横32.8cm。

2-5)「名所絵等目録」

彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10886。7289-5。1 綴。6 丁。半丁 17 行内外。縦 12.3 cm、横 33.1 cm。

2-6)「詩文章等目録」彦根城博物館所蔵『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10887。7289-6。1 綴。18 丁。半丁 15 行内外。縦 13.5 cm、横 34.8 cm。

2-7)「御書物之類目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10888。7289-7。1 綴。12 丁。半丁 18 行。縦 12.5 cm、横 34.0 cm。

3)「蔵書目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10873。調番 26069。1 通(2 枚)。縦 16.0 cm、横 97.8 cm。上下 2 段組。印記なし。

4)「蔵書目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(5) 105 頁。No.1295。調番 Y108。1 綴。縦 31.0 cm、横 21.5 cm。印記なし。

5)「唐本書目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(5) 107 頁。No.1327。調番 Y158。1 冊。仮綴。縦 28.3 cm、横 20.3 cm。19 丁。半丁 12 行。印記は「井伊家／蔵書」(2 丁表)。

6)「香道具並御書物目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10878。調番 26070。1 通。縦 16.3 cm、横 46.0 cm。印記なし。

7)「射学文書目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10881。調番 8283。1 通。縦 18.8 cm、横 11.5 cm。印記なし。

8)「書籍目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10871。調番 23766。1 通。縦 14.0 cm、横 156.5 cm。印記なし。

9)「書籍目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10872。調番 23668。1 通。縦 15.7 cm、横 69.2 cm。印記なし。

10)「書籍目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10877。調番 23767。1 通。縦 16.2 cm、横 54.6 cm。印記なし。

11)「白木小箆筒中より出候分目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10879。調番 6370。1 綴。縦 24.5 cm、横 16.5 cm。印記は「井伊家／蔵書」。

12)「書籍目録」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 316 頁。No.10870。調番 23765。1 通。縦 16.2 cm、横 6.8 cm。印記なし。

13)「書籍書上」彦根城博物館所蔵。『彦根藩文書調査報告書』(4) 317 頁。No.10874。調番 30771。1 通。縦 24.0 cm、横 16.8 cm。印記なし。

14)「井伊氏蔵書目録抄」国立公文書館内閣文庫所蔵。請求記号 219-0130。1 冊。縦 28 cm×横 20 cm。全 12 丁(本文 10 丁)。外題は「井伊氏蔵書目録抄」(表紙左肩部に墨書)。内題も「井伊氏蔵書目録抄」(第 1 丁表 1 行目)。用紙は縦書き半丁 13 行の罫線紙で、柱に「太政官」とある。本書はその第 11 丁裏十行目に「明治十四年三月以大蔵省記録局蔵本謄写」と記載されているので、明治 14 年(1881)3 月に、大蔵省記録局が所蔵していた目録の謄写本であることが知られる。蔵書印は「内閣／文庫」(方形朱印)のみである。

15)「井伊家所蔵蘭書目録」中村直勝編『彦根史』(彦根市役所、昭和 37 年刊)第 5 編第 1 章「彦根藩の洋学」によると、この目録は「直亮・直弼の時代に購入された蘭書で、井伊家に現存しているものの目録を、参考までに掲示した」(中冊 692 ページ)のものであるという。ただし、本研究ではその原本を確認することはできなかった。

(2) 彦根城内の文庫の蔵書目録

江戸中期の寛政 6 年(1794)12 月に作成された①-1)「彦根書物帳」には、計 71 箱 210 点の書名が掲載されている。その内訳をみると、分類項目別では「本朝軍記類」が 45 点(21%)と最も多く、次いで「(井伊家に関する記録類)」と「年代記并有職之類」が共に 24 点(11%)ずつを占める。

その約 60 年後、江戸末期の嘉永年間以後に作成されたと推定される①-2)「彦根物置御書物類留」には、計 495 点の書名が載る。この 495 点という蔵書数は、①-1)「彦根書物帳」の蔵書数の 2.4 倍で、彦根城内の文庫の蔵書目録の中では最多である。その蔵書傾向を見ると、歌書・歌学書類(「哥書上へ」「哥書下タ」「歌学書下タ」など)が 88 点(18%)と最も多く、次いで兵書類(「御兵学書」「兵

書御箱)が66点(14%)、「本居著述書」が55点(12%)と続く。なお、①-2)「彦根物置御書物類留」には漢籍、法帖、画本類は記載されていない。これらの書物類は「物置」ではなく、別の場所に保管されていたのである。

明治時代中期(明治39年以前)の作成と推定される①-3)「書籍目録」には、計144点の書名が記録されている。この蔵書数は①-1)「彦根書物帳」に記載された210点の69%に相当する。その内訳を見ると、分類項目別では「大樹公家之部 諸家系譜之部」が53点(37%)と最も多く、次いで「歌書之部」が20点(14%)、「有職故実之部 付集古之部」が19点(13%)で、これら3部で蔵書全体の64%を占める。一方、①-1)「彦根書物帳」と①-2)「彦根物置御書物類留」では、それぞれ蔵書の主要な部分を占めていた兵書類が、①-3)「書籍目録」では「兵書之部」の3点(3%)しか所蔵されていない点が注目される。

(3)江戸藩邸内の文庫の蔵書目録

江戸後期の作成と推定される②-1)「江戸書物帳控」には、計362点の書名が記録されている。その蔵書傾向を分類項目別に見ると、「詩文章類」が69点(19%)と最多で、その次に「歌書類」が46点(13%)、「本朝記録類」が44点(12%)、「物語類」が38点(11%)と続く。第1位の「詩文章類」と第2位の「歌書類」、それに「物語類」を合計すると、153点(42%)に上り、②-1)「江戸書物帳控」の蔵書数の約半数を和漢の文学書で占められていることが注目される。また、「本朝兵書類」と「本朝軍記類」と「通俗類」を合計すると、51点(14%)となり、兵書軍記類も江戸藩邸の蔵書の主要な部分を占めていたことも留意される。

江戸後期の安政5年(1858)以降の成立と推定される②-2)「江戸蔵書目録」(全5冊)には、計569点の書名が記載されている。この蔵書数は前述の②-1)「江戸書物帳控」の蔵書数の1.6倍にあたる。②-2)「江戸蔵書目録」の蔵書傾向を部類別にみると、「雑書之部」が237点(42%)とほぼその半数を占め、次いで「歌書之部」が161点(28%)、「経書之部」が68点(12%)、「国書之部」が41点(7%)、「詩文章之部」が31点(5%)、「連歌俳諧之部」が同じく31点(5%)である。ここでも「歌書之部」「詩文章之部」「連歌俳諧之部」の3部(和漢の韻文関係の書物)を合計すると223点(39%)となり、前述の②-1)「江戸書物帳控」と同じく、和漢の文学書がその蔵書の主要な部分を占めていたことが知られる。また、その和漢の比率は、漢籍を1とすると和書は6であり、国文学関係の書物の比率が高いという特徴が認められる。

②-3)「書籍目録」は明治時代初期の成立と推定されるもので、計10冊(現存のみ)あり、冊数として最も多い。この10冊に記載された書名数を合計すると、計3,151点である。この蔵書数は②-1)「江戸書物帳控」の約10倍、②-2)「江戸蔵書目録」の約5倍の数字である。明治初期の井伊家には少なくとも3,000点を超える書籍が家蔵されていたのである。近世を通じて井伊家は武門の家として知られていたが、その一方で江戸後期から幕末を経て、明治に入った頃には、井伊家は江戸藩邸だけでも3,000点を越える蔵書を有する蔵書家でもあった。その蔵書のジャンルを今日の観点から見ると、「芸能」が1032点と最も多く、全体の約3分1を占める。「芸能」の中では「茶道」が606点と最も多く、「芸能」の約6割、全体の約5分の1に相当する。次いで「音楽」が213点あり、「茶道」と「音楽」で「芸能」の約半数を占める。「芸能」に次いで多いのは「国文」の660点である。その中でも「和歌」の498点が注目される。この498点という数字は「茶道」の606次に次ぐ。「国文」の後には「兵学」が467点、「絵図類」が381点、「仏学」が137点と続く。「仏学」までの上位5位で見ると、全体の85%を占める。明治初期の井伊家の江戸邸の蔵書は、「茶道」と「音楽」を中心とした「芸能」に関する書籍を中心に、「和歌」などの「国文」、それに「兵学」、「絵図類」、「仏学」の書籍などで、その蔵書が形成されていたことが知られるのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

本研究の成果として『彦根藩井伊家の蔵書目録に関する基礎的研究』と題する報告書を作成し、関係研究機関・研究者に配布した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

膽吹 覚 (IBUKI SATORU)

福井大学・留学生センター・寿教授

研究者番号：70362035

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし